

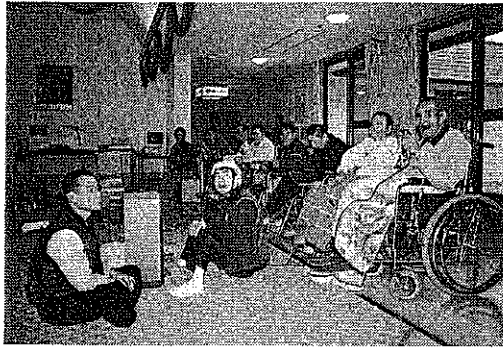
クラブ紹介

歌声もかろやかに

『カラオケクラブ』

三惠ホームカラオケクラブは、発足以来八年目になりました。はじめは、マイクを持つ手もふるえ、唄う事さえ出来かねましたが、言葉のリハビリをするつもりで、頑張りました。

その結果、今まで言葉の出にくかった者もびっくりする位歌詞もはっきりとわかり、



さあ きばっていきまひょうか

心よりよかったと喜んでおります。

これまでの活動としては、松山市の五明苑、新居浜市の角野荘、川内町のガリラヤ荘という三つの老人ホームに七、八人が慰問に行かせて頂きました。おじいさん、おばあさんに大変喜ばれ、帰りには玄関まで出て「又々せひ」と送って頂き、日頃よりカラオケクラブとして活動してきてよかったですとつくづく思いました。

新しい年もなお一層頑張り、一人でも多くの入所者に参加していただき、又どしどし地域に出てカラオケの輪を広げたいと思っております。

部長

広瀬 律子

副部長

森川 真行

クラブ員

三十名

活動日

毎週水曜日

金曜日



山ひこ

あの感動をもう一度

『騎兵隊』を観て

稲垣 啓子

私は歴史が好きです。特に幕末の事に興味を持っています。坂本龍馬（高知弁）高杉晋作（長州弁）が好きです。なかでも、高杉晋作に深い感銘を受けました。

高杉晋作は、農民を集めて騎兵隊を作りました。質・量共に、幕府軍に劣ってはいませんが、最後に幕府を倒して明治維新を起したその力強さは、今も伝えられている程です。彼は、維新前に結核で亡くなっています。生きていたらどんなに喜んだ事でしょう。私は、そんな彼が病床で生死をさ迷い乍らも、うわ言で「全軍、前へ進め」と、云った時涙が出ました。国の為に命をかけた高杉晋作。生きていたら現代をどう思うのでしょうか。

今年、特別のはからいで、テレビドラマ『騎兵隊』を見せて頂きました。（三十日と三十一日は、夜十二時迄）寮母さん達に御迷惑をかけましたが、全部見ることが出来て大変嬉しく思います。